

「五輪峠は今②」 4月16日五輪街道開通！

開通後ただちに五輪街道を走ってみました。沢には春蘭が咲き、かわいいスミレも咲いていました。五輪塔の周りにはカタクリの花がかわいい顔でうつむいていました。街道の桜は咲いていましたが、五輪塔の桜は、5月には咲くでしょう。



昭和32年県道174号線米里小本線が開通した時の記念の石碑です。当時の村長は佐伯信氏でした

く黄色い円が藩境塚。県道を作る時に半分削られています



日本ハリストス正教会の

日本人最初の司祭沢辺琢磨が明治元年五輪峠を越える

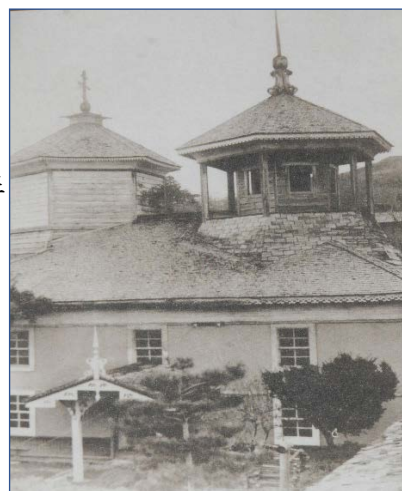
沢辺琢磨は従兄弟の坂本龍馬と剣術修行のために江戸に赴いたが悪事を犯し脱藩させられました。彼は江戸を逃れ、東北へ。郵政の祖前島密と共に新潟から船で函館に渡りました。当時函館にはロシア正教(ハリストス正教会)ニコライがおり、彼との諍いの中でニコライの説教にキリスト教信者に。

明治元年沢辺琢磨は布教のために五輪峠を越えて江戸の向うが、気仙沼で捕らえられ、函館に護送される途中人首番所に。その晩沢辺の所持品の中の奇妙な本に興味を持った番所役人にキリスト教について話したのが、本県で最初の布教活動と言われている。

その後人首にもハリストス正教会が発足されました。

明治12年 ヤコブ副伝教師布教活動 翌年信者23名

- 14年 ニコライ大主教巡教人首ハリストス正教会発足
- 16年 沢辺琢磨監督司祭 巡錫
- 23年 人首ハリストス正教会堂建設 信者 300名
- 26年 ニコライ大司教巡錫
- 昭和 8年 人首町大火で焼失
- 27年 再建8割で再び焼失
- 58年 岩谷堂ハリストスに合併



㊦3代目㊦2代目㊦初代

お話① 同志社大学の創設者新島襄がアメリカに密航した時彼を支えた人が、澤部琢磨でした。

「種山ヶ原は今 ㊦31」

今年は暖冬のため雪が少なく3月から種山ヶ原の整備を進めようと考えていましたが、2月から急に冬に戻り、結局種山ヶ原に入ったのは、4月7日でした。星座の森のスタッフは既に準備に追われていました。

4月7日の種山ヶ原





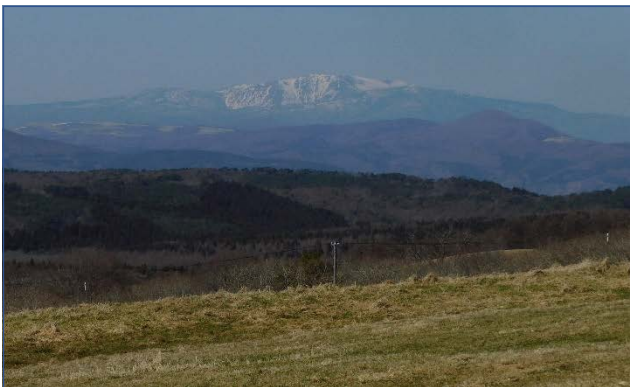
野焼きの後の「風の又三郎」



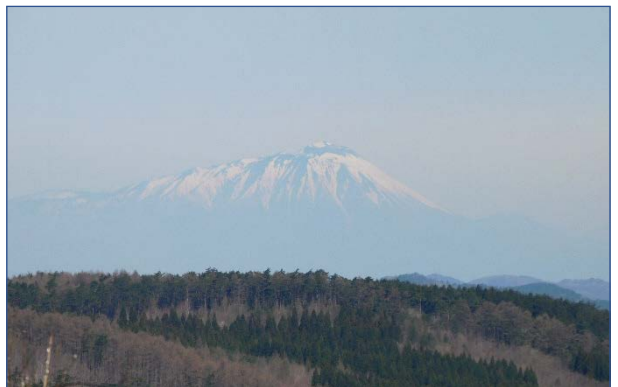
賢治の森の野芝がきれいです



星座の森 賢治の森



早池峰山



はるかに岩手山



種山ヶ原の夕焼けも黄砂でぼんやり



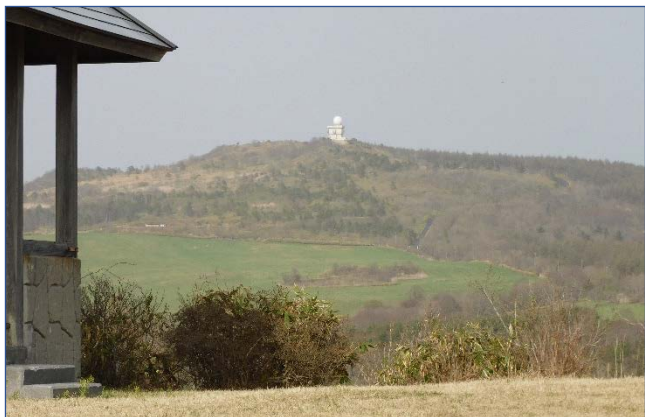
麓の人首は菜の花が咲いています

星座の森にも桜が咲きました



黄砂でこんなにうっすらと

ロッジの周りにはコブシやヤマザクラの花が



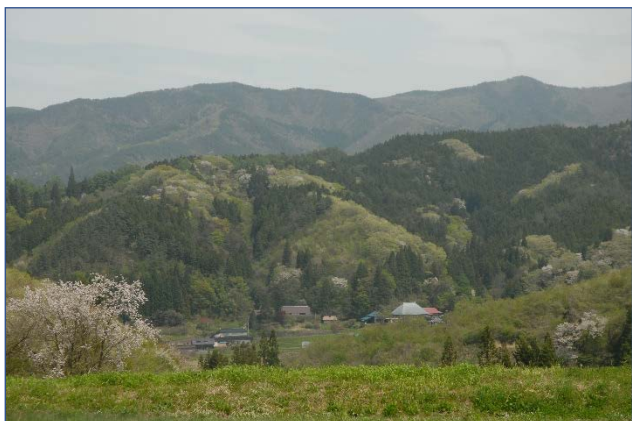
山桜は葉も赤いためきれいです



こぶしの花もいっぱい 白いナシの花が咲きました



麓の里も萌え 正に「山が笑う」 農家の人達は農作業に追われています



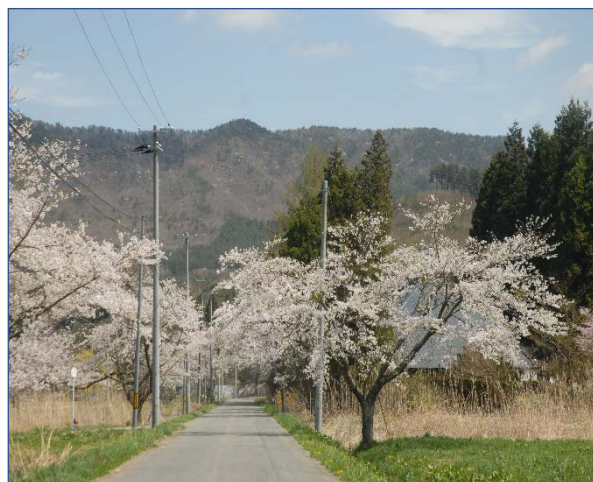
リンゴの花も咲き始めました



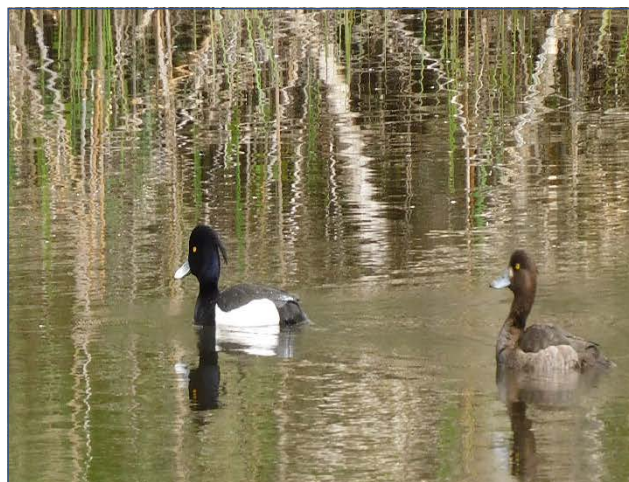
リンゴの花もきれいですね



五輪峠連山



近くの堤に スズガモ夫婦が



会員の熊谷哲郎さんが軒下にヤンマをつるしていました。
「何に使うの？」
「これを吊るせば、蚊が来ないのかなど
思って作ってみた。」という
手の器用な人だけに色々工夫していて
感心してしまった。

